

令和4年度12月22日
令和4年度第2回千葉県CKD重症化予防対策部会

栄養ケア・ステーションを利用した栄養指導体制の構築について

慢性腎臓病（CKD）重症化予防を推進していくためには、毎日の食事管理（栄養指導）は重要であり、医師と管理栄養士が連携し患者に対し指導を行う体制は欠かせない。

そのための一つの取組みとして、栄養ケア・ステーションを利用した栄養指導体制の構築に向けて検討したい。

1 栄養ケア・ステーションとは

地域の方々の生活に密着した食事栄養・食生活の支援を行っている活動拠点のことである。日本栄養士会・47都道府県栄養士会が設置し、管理栄養士・栄養士が所属して日々の食事のことや栄養について相談できる場所となっている。

（日本栄養士会HPから）

2 第1回CKD重症化予防対策部会（以下、CKD部会）での検討状況について

前回のCKD部会では、生活習慣病は慢性腎臓病（CKD）の発症に関与するのみならず重症化の共通したリスク因子でもあることから、かかりつけ医においても栄養指導ができる体制を構築していくことがCKDの予後を将来にわたり改善するために必要ではないかと提案があった。

また、市原地域では栄養士を主要メンバーとした一般社団法人を設置し、先進的に取組が行われているという情報もいただいた。

3 今後の進め方

- ・ 地域での栄養指導についての現状把握と課題の共有
- ・ 構築に向けCKD対策協力医と連携したモデルケースの検討
- ・ CKD患者に対する栄養指導の標準化を図るための方法（講習会、ガイドブック作成等）の検討
- ・ 本CKD部会の構成員として、千葉県栄養士会から委員を選出